

BUDŌ

NEWS

今月のニュース

第74回天皇杯 全日本相撲選手権大会



入賞者。(左から) 準優勝・大森康弘、優勝・鮫島輝、3位・三輪隼斗、バットヤッグ・バヤルボルド



全日本男子なぎなた選手権大会入賞者。左から、3位・増田良明、優勝・増田道仁、2位・入江晃太



全日本なぎなた選手権大会入賞者。左から、3位・佐藤あき子、優勝・林田智笑、2位・上地星奈

皇后盃第70回 全日本なぎなた選手権大会 第25回 全日本男子なぎなた選手権大会

注目ニュース

第74回天皇杯全日本相撲選手権大会

鮫島輝（日本大学）が初優勝

大学1年生で全日本制覇

第74回天皇杯全日本相撲選手権大会（主催：日本相撲連盟）が昨年11月30日、両国国技館（東京都墨田区）で開催された。決勝は、鮫島輝（日本大学1年）と大森康弘（金沢学院大学4年）が争い、鮫島が寄り倒して勝利した。
※詳細は今月のニュース（184ページ）をご覧ください。



▼決勝 鮫島（右）対大森



第74回天皇杯全日本相撲選手権大会

鮫島輝 (日本大学) が初出場で優勝



●優勝 鮫島 輝 (さめじま・ひかる)

所属・学年…日本大学・1年 / 身長・体重…185cm・160kg / 段位…参段 / 出身高校…埼玉栄高等学校 / 競技成績…第50回全国学生相撲個人体重別選手権大会135kg以上級第3位、第64回全国大学選抜相撲宇佐大会ベスト8

第74回天皇杯全日本相撲選手権大会(主催II日本相撲連盟)が昨年11月30日、両国国技館(東京都墨田区)で開催された。大会には全国から集った80名の選手が参加し、予選リーグから激戦を繰り広げた。決勝は、いずれも初の決勝進出となった鮫島輝(日本大学1年)と大森康弘(金沢学院大学4年)が対戦。鮫島が寄り倒しで大森を下し、優勝に輝いた。なお、大学1年生での優勝は第69回大会の花田秀虎(日本体育大学)以来5年ぶり3人目。

本大会の出場者は、日本相撲連盟(ディック)が、左腕の怪我のため棄権。その他、第66回大会優勝の西郷智博(鳥取県庁)や世界選手権大会重量級優勝経験のある竹内宏晟(三重県)らの実力者が予選リーグで姿を消した。激戦の末、鮫島輝、大森康弘、三輪隼斗(ソディック)、バットヤング・バイルボルド(日本体育大学2年)の4名が準決勝に進出した。

得点の選手が多く、出場枠拡大につながったと考えられる。 ◆ 準決勝1試合目は大森と三輪が対戦。両者とも石川県穴水町出身であ

決勝

鮫島 輝 ○（寄り倒し） 大森康弘

鮫島が立ち合いからもう差しになると、大森に廻しを取る隙を与えず前に出る。最後は体ごと被せるように鮫島が寄り倒し、優勝を決めた



り、一昨年の国民スポーツ大会（佐賀県）ではチームメイトとして戦い、団体の部で優勝している。普段から稽古を共にする先輩後輩の対決は、三輪が立ち合いから激しく攻めるも、大森が体を左にさばいてうまくいなす。最後は大森が三輪を突き出して勝利した。

準決勝2試合目は鮫島とバイアルポルドが対戦。初出場ながら準決勝まで勝ち上がってきた鮫島と、前回大会で3位に入賞しているバイアルポルドの試合は、立ち合いからバイアルポルドが勢いのある攻めで鮫島を一気に土俵際まで追い込む。後がない鮫島だったが、勢いを利用した叩き込みで勝利し、決勝へ進んだ。

決勝はともに初優勝がかかる鮫島と大森の対戦。身長185cmと大柄な両選手が相まみえる。立ち合いで激しく当たった両者だが、鮫島がもろ差しとなり、一気に大森を土俵際に追いやる。最後は鮫島が寄り倒しで勝利。鮫島は初優勝を果たし、土俵上で涙を滲ませ喜びを噛み縮めた。



準決勝①

大森康弘 ○（突き出し） 三輪隼斗

ベテラン三輪(左)の立ち合いからの攻めに対して、大森が上から抑えていなし、突き出しで勝利した



準決勝②

鮫島輝 ○（叩き込み） バヤルボルド

立ち合いからバヤルボルド(左)が激しく攻めるが、体格で上回る鮫島が叩き込んで勝利した

●優勝者インタビュー 鮫島 輝選手

思いがけない優勝、ライバルの存在が力に



つもりで臨んではいたのですが、まさか勝てるとは思いませんでした」と述べた。



中学・高校時代と、あと一步のところで個人タイトルを逃してきた鮫島選手にとって念願の優勝。閉会式直後のインタビューで鮫島選手が率直な喜びの気持ちを述べた。

「小学生の頃からこの大会を見ていて『いつか自分もここで優勝したい』と思っていたのですが、まさか本当に優勝できるとは思っていませんでしたので、とても嬉しいです。今年も個人の成績が伸びなかった中、最後にこんな大きな大会で力を出せたことはすごく自信になりました」

大森選手との決勝については、「いろいろな大会で活躍している先輩なので、とにかく思い切りやろうと思っていました」と振り返り、「勝つ



大学1年生にして華々しい結果を残した鮫島選手に、今後の展望について伺った。

「今日は今日として、また明日から次の大会に向けて頑張っていこうと思います。また全国で団体優勝して、個人もいけるところまでいきたいです」

角界への挑戦については、「まだあと大学が3年間あるので、しっかり過ごしてから考えます」と述べた。

■大会結果

●優勝

鮫島 輝 (日本大学1年)

●準優勝

大森 康弘 (金沢学院大学4年)

○3位

三輪 隼斗 (ソディック)

バットヤック・バイルボルド

(日本体育大学2年)

▽敢闘賞

バヤスガランムンフ・ムンフビルグーン

(日本大学1年)

木下 優希 (東京農業大学4年)

田畑奨治郎 (岐阜県)

篠 侑磨 (金沢学院大学3年)

●小学生力士が国技館で熱戦

第74回全日本相撲選手権大会と同日・同会場で、第38回全日本小学生相撲優勝大会が開催された。大会は4年生以下の部、5年生の部、6年生の部の3部門が行われ、各部門33名、合計99名の選手が出場した。



6年生の部
決勝 山路弘祐 (右) 対山崎聖太

■大会結果

(小学4年生以下の部)

●優勝

由介 (東京都大田区)

●準優勝

大恋 (東京都台東区)

○3位

高本 雄大 (宮崎県延岡市)

重松 優佐 (佐賀県武雄市)

(小学5年生の部)

●優勝

恒亮 (石川県津幡町)

●準優勝

心也 (富山県高岡市)

○3位

中村 陽翔 (青森県五所川原市)

渡邊 日翔 (大分県大分市)

(小学6年生の部)

●優勝

山路 弘祐 (神奈川県川崎市)

●準優勝

山崎 聖太 (東京都台東区)

○3位

花田 春東 (青森県弘前市)

長谷川 舜 (青森県つがる市)

皇后盃 第70回全日本なぎなた選手権大会



8連覇の巻圧

皇后盃第70回全日本なぎなた選手権大会・第25回全日本男子なぎなた選手権大会が昨年12月7日(女子)と同6日(男子)、東京都足立区の東京武道館で開催された。日本全国から女子53名、男子62名が覇を競った。

女子の決勝は、大会7連覇中の林田智笑(大阪)と上地星菜(沖縄)が対戦。試合は林田がコテを決めて勝利。大会8連覇と単独での歴代最多優勝記録を樹立した。

男子の決勝は7連覇を目指す増田道仁(兵庫)と入江晃太(大分)が対戦。試合は延長戦の末、増田がメンを捉えて一本勝ち。自身の持つ連覇記録を更新、8度目の優勝を飾った。

皇后盃・女子

■決勝

林田智笑 コー 上地星菜

8連覇に王手をかけた林田と上地の顔合わせ。試合序盤、林田が先に仕掛ける展開が続く、上地は林田の技を見計らって攻めていく。試合中盤、両者メンやスネを組み合わせて



林田智笑(大阪)が

攻めるも、一本を取るにはいたらない。むかえた試合終盤、林田が上地の意表を突き、一気に踏み込むとコテを捉えて一本を決める(写真)。残り時間が少ないなか追いつきたい上地であったが、反撃及ばず試合は終了。林田が8連覇を達成し歴代最多優勝記録を更新した。

■3位決定戦

佐藤あき子 判一 和田うらら
第51回大会で優勝経験のある佐藤

あき子(熊本)と和田うらら(東京)の一戦。佐藤が序盤から積極的の前に出て間合いを詰めながら技を仕掛けていく。対する和田は前に出る佐藤から距離をとりつつ、機を窺う。両者仕掛けるも決定打は生まれず、試合終了。判定で佐藤が3位入賞を果たした。

■準決勝

①林田智笑 メスー 和田うらら

林田と和田の一戦は、林田が立て続けにメントスネを連取し、圧巻の強さで勝利を収めた。

②上地星菜 判一 佐藤あき子

上地と佐藤の一戦は、互いに一本が出ずに試合終了。判定2-1の接戦を上地が制した。



3位決定戦＝佐藤(左)がスネを狙う



準決勝①＝林田(右)がスネを決める



準決勝②＝上地(左)と佐藤が攻め合う

◎優勝者インタビュー

林田智笑五段(大阪)



打っていたという感じでした」

——8連覇を果たした気持ち

「いつも選手権大会を迎えるにあたって、大阪の先生方から『1回目だと思って、チャレンジャーのつもりで行っておいで』と声をかけていたっているので、連覇自体はあまり意識していませんでした」

——連覇へのプレッシャーについて

「試合の日がくるまではソワソワしてしましますが、試合当日は割り切つてやるしかないという気持ちで臨んでいます」

——普段の稽古について

「普段は高校の教員として、生徒と部活動で稽古しています。選手権大会の1、2カ月前から夜に選手権に出場する選手や大人の選手と大会に向けた稽古をします」

——今後の目標について

「床を蹴つたパワーがしつかり切先に伝わるように、ただ『当たる』打突ではなく、『切れる』打突を目指して稽古を積んでいきます」

——優勝した今の気持ち

「純粹に嬉しい気持ちはとてもありますが、昨年よりも一本の正確さや決め切ることができていなかったのが悔しいです」

——決勝を振り返って

「最初の1分くらいまでは、自分のペースで試合ができていましたが、その後から相手のペースになってしまいました。最後だったので、思い切つていこうと決めたのが結果に繋がつてよかったです」

——優勝を決めた一本について

「コテは得意技でもあるので、狙つたというよりは、自然に体が動いて

○入賞者コメント

▽2位Ⅱ上地星菜四段（沖縄）



「優勝するつもりだったので、最後決勝で一本取られて負けた

ことは悔しいです。ただ、この大会のために先生方や先輩方が協力してくださり、私だけの稽古を用意してくれたなかで、2位という結果で返せたことはよかったです。相手の出方をみて落ちて着いて試合はできたと思います。最後のコテは相手が入ってきていたのに気づけず、浮いてしまったところを打たれてしまいました。相手の動きに気づけなかったところに実力の差を感じました」

▽3位Ⅱ佐藤あき子錬士（熊本）



「残念です。準決勝で疲れが出てしまい、一本を決め切るだけの体力が残せませんでした。昨年の初戦敗退から1年間、何が足りないのか考えてやってきました。ここま

できたら、自分が今までやってきたことを信じてやるしかないという気持ちで臨みました」



公開演武「全日本なぎなたの形」
仕：吉井美恵子（左）・打：中村ゆり子



皇后盃を受け取る林田（左）

【大会結果】

▽優 勝Ⅱ林田智笑（大阪）

▽第2位Ⅱ上地星菜（沖縄）

▽第3位Ⅱ佐藤あき子（熊本）

公益財団法人全日本なぎなた連盟創立70周年記念式典・祝賀会

連盟創立70周年を祝して開催

全日本なぎなた連盟創立70周年記念式典・祝賀会が令和7年12月6日に東京都千代田区のホテルグランドアーク半蔵門で行われた。

式典では、久保素子全日本なぎなた連盟会長の挨拶を皮切りに、協力団体への感謝状の贈呈、全日本なぎなた連盟表彰として特別功労者表彰、功労者表彰が行われた。

祝賀会では、久保会長のほか、三宮恵利子日本スポーツ協会副会長、片岡正徳日本武道館常任理事・事務局長が挨拶。また、橋本聖子日本オリンピック委員会会長が祝賀会の途中で来場し、お祝いの挨拶を述べた。

日本武道協議会事務局の篠寄浩之氏の発声による乾杯で祝杯をあげ、連盟創立70周年を盛大に祝うとともに、なぎなたの歴史がこれからも紡がれていくことを祈念した。



特別功労者表彰

第25回全日本男子なぎなた選手権大会 増田道仁（兵庫）が7連覇を達成



決勝・延長戦＝増田道仁(右)がメンを決める

男子

■決勝

増田道仁 メー 入江晃太

大会6連覇中の増田と入江の対戦。開始から入江が前に出て技を仕掛ける。増田は冷静に距離をはかりながら、入江の技を見極める。中盤からはメンが交錯するなど、両者積極的に攻めるも、決め手に欠ける。結局本戦で勝敗は決まらず、試合は延長戦へ。延長戦1分20秒が経過したころ、増田がフェイントからのメンを決めて一本勝ち。7連覇を果たした。

■3位決定戦

増田良明 メー 女ヶ澤綜磨

増田道仁の父・増田良明（兵庫）と女ヶ澤綜磨（岩手）の顔合わせ。開始1分、増田が女ヶ澤のメンを捉えて一本を先取る。その後も守りに入らず、積極的に技を仕掛け攻める増田。追いつきたい女ヶ澤も攻める姿勢を見せるも、一本を取れず試合終了。増田が3位入賞を果たし、連盟創立70周年の記念大会に親子で表彰台に上がった。

■準決勝

① 増田道仁 判ー 女ヶ澤綜磨

増田と女ヶ澤の一戦は、両者一本を取れないまま、試合は終了。判定で増田に軍配が上がった。

② 入江晃太 コメー 増田良明

入江と増田の一戦は、入江がコテで一本を先取すると、その後も攻め続け、2本目となるメンを決めて勝利を収めた。



3位決定戦＝増田良明(左)がメンを決める

◎優勝者インタビュ

増田道仁四段（兵庫）



— 7連覇を果たした気持ち

「今日たまたま僕の日だったというのが続いているだけだと考えているので、連覇をしたことよりは、来年も男子のなぎなたをみんなで盛り上げていきたいという気持ちが強いです」

— 大会一日を振り返って

— 優勝した今の気持ち
「内容的にはあまり良くなかったですが、若い選手が積極的な試合をしていたので、それに負けないように臨みました」

— 決勝を振り返って

「入江選手は決勝までの全ての試合で一本を決めて勝ち上がってきて気合も入っていたので、勢いに負けないようにしました」

— 優勝を決めた一本について

「自分としてはあまり納得していない一本でしたが、気持ちが入っていたので、一本を取っていただけかなと思います」

— 今後の目標について

「誰が見ても目標にしてもらえるような選手になりたいですし、子どもたちになぎなたの素晴らしさを伝えられるような指導者になりたいです」

○入賞者コメント

▽2位 入江晃太三段（大分）



「決勝に進めたことは自分を褒めてあげたいと思いました。」

「決勝は終始押されていて、どこかで一本を出したかったですが、考えているうちに視野が狭くなり、逆に一本取られてしまったと思います。凌ぐのが精いっぱい、増田選手の高さを感じました」

▽3位 増田良明五段（兵庫）



「まさか入賞するとは思っていません。驚いています。」

息子（道仁選手）との稽古が体力的にしんどくなってきましたが、今回入賞できてよかったです」



連日の大会では、増田良明・道仁

親子をはじめ、井上敏克・由里葵（群馬）、柘本明理（新潟）・新（大阪体育大）らが記念大会に親子で出場。

生涯武道のあり方の一つとして、ファミリーでなぎなたが次世代に「継承」されていた。



全試合終了後、男子選手権出場選手による公開演技が行われた（6日）



【大会結果】

▽優勝 増田道仁（兵庫）

▽第2位 入江晃太（大分）

▽第3位 増田良明（兵庫）



演武大会の集合写真



荒木流拳法（棒術）



真蔭流柔術

過去最多の69流派が演武を披露

令和7年度明治神宮奉納
日本古武道振興会創立90周年記念演武大会

令和7年度明治神宮奉納日本古武道振興会創立90周年記念演武大会が昨年11月3日、明治神宮（東京都渋谷区）で開催された。主催である日本古武道振興会の節目の年に開催された本大会には、過去最多の古武道69流派が参加した。また、本大会終了後には明治神宮外苑の一角にある明治記念館（東京都港区）で祝賀会が開催された。

公益財団法人日本武道館ならびに日本古武道協会のご後援を賜り、2025年11月3日、雲一つない快晴のもと、明治神宮西参道芝地において「日本古武道振興会創立90周年記念演武大会」を開催いたしました。本大会には69流派・424名が参加し、多くの参道観客に見守られる中、創立90周年の節目を飾るにふさわしい、過去最大規模での開催となりました。

本大会は69流派を2会場に分割し、1流派につき7分間という限られた時間ではありましたが、各流派の特色を凝縮した演武が披露されました。観客には多くの外国人の姿も見られ、「Great Samurai!」と歓声が上がる一幕もあり、古武道への関心の高まりを実感する場となりました。

本大会終了後には、明治記念館において「日本古武道振興会創立90周年祝賀会」を開催しました。武道関係者をはじめ、奉納演武でご縁をいただいている各神社の皆様を来賓にお迎えし、盛会裏に終了いたしましたことをご報告申し上げます。また、創立90周年を記念し、参加流派

日本古武道振興会は昭和10年、当時貴族院議員であった松本学先生のご提唱により、日本武術の興隆を図り、文武両道・質実剛健の精神を備えた青少年の育成を目的として、各界の有識者および古武道諸流派の代表者によって結成されました。

現在、当会は約90流派・約一千名の会員を擁し、浅草、靖国神社、下鴨神社、白峯神宮、熱田神宮、明治神宮などにおける奉納演武を中心に

日本武道館発行の単行本

武道の礼法

小笠原清忠
(弓馬術礼法小笠原教場
三十一世宗家) 著

相手に誠心が響く礼法を小笠原流礼法宗家が直々に指南する、武道関係者必読の一書。



小笠原 清忠
武道の礼法

四六判・上製278頁
定価2,640円

◎ご注文・お問い合わせ◎

(公財)日本武道館 月刊「武道」編集部
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
<https://www.nipponbudokan.or.jp>



神夢想林崎流居合術



森重流砲術



演武大会後に開かれた祝賀会

による「流儀解説書」を作成しました。変化の著しい現代社会にあっても、日本古武道が有する精神性と徳を次代へ確実に継承し、より多くの方々に共感を得られる形で普及させていくことが、私どもに課された使命であると考えております。本創立90周年事業がその一助となり、未来を担う人々にとって武道精神への新たな気づきとなれば幸甚に存じます。

実行委員長 近藤昌之氏